

○松岡奈保子¹⁾, 山本未陶²⁾, 中村譲治¹⁾, 筒井昭仁²⁾¹⁾NPO 法人ウェルビーイング, ²⁾福岡歯科大学

(索引用語: 学校歯科保健, 高校生, MIDORI モデル)

口腔衛生会誌 56 (4), 2006

目的:

学校歯科検診が義務づけられているのは高等学校までであり, これ以降は検診や歯科保健指導を受ける機会はほとんどなくなる。しかし, 学校現場では受験のための補習授業や放課後のクラブ活動が忙しく, 歯科保健指導を実施する時間が確保できないことが多い。しかもこの年代の身体的な関心事は, 男女交際を中心とした性に関することや, スタイルや体重等見た目に関することが上位を占め, 歯科保健に関する関心は殆どないかに見受けられる。

そこで演者らは高校生の歯科における困り事, 保健行動, 知識, 態度を把握するために MIDORI モデルを応用し質問紙を開発した。その質問紙を使い女子高校生の歯科保健の実態を調査したので報告する。

対象と方法:

福岡県内の S 女子高校全校生徒 (1 年生 388 名 2 年生 345 名 3 年生 314 名) を対象に 2006 年 5 月に質問紙調査を実施した。質問紙は MIDORI モデルをベースに, QOL, 健康問題, 保健行動, 知識・態度に分類できるように 25 項目の質問項目を設定した。結果は χ^2 検定を用いて分析した。

結果:

1. QOL として『この 1 年間に歯や歯ぐきのことが原因でおいしく食事ができなかったことがある』生徒は, 全体で 25% であった。『現在自分の歯で困っていることがある』生徒は 57% であった。この中では『痛い』(10%) という歯肉炎など病気に起因するものより, 『歯並び』(24%) 『歯の色』(21%) 『見かけ』(15%) 『口臭』(14%) など他者の目を気にしたものが多かった。

2. 健康問題では『歯みがきをすると血が出る』生徒が 63% いた。

3. 保健行動では『1 日の歯みがき回数』は, 2 回 (68%) が

最も多く, ついで 1 回 (17%), 3 回 (12%) の順であり, 1 日 1 回磨かない生徒 (2%) もいた。『甘い物を毎日食べる』生徒が 38% 『甘味飲料を毎日飲む』生徒も 32% いた。

4. 知識・態度では『定期検診で歯ぐきの病気の予防ができる』と約 80% の生徒が答えているが, 実際に定期健診を受診している生徒は約 15% しかいなかった。

考察:

質問紙調査結果から, 以下の課題が示唆された。

1. 20~30% の生徒がおいしく食べられなかったことがあるとこたえているが, 実際に困っていると感じているのは『口臭』『歯並び』『歯の色』などの見た目に関するものであり, 口腔内状態を含めた困り事の実際に関する更なる調査の必要性が示唆された。

2. 歯みがき時に出血する生徒が多く歯肉炎の有病者率が高いと思われる。歯肉炎をターゲットとした歯みがき指導の必要性が示唆された。

3. 甘いものおよび甘味飲料の摂取頻度が多く, 食に関する保健指導の必要性が示唆された。

